

1 単元名 「I like ME!～オリジナル絵本で伝え合おう～」  
 教材名 『Let's try!』Unit9 「Who are you?」 きみはだれ?

2 単元の目標

- 日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、誰かを尋ねたり、それに答えたりする表現に慣れ親しむ。 (知識・技能)
- 絵本などの短い話を聞いて、おおよその内容が分かり、好きな物を伝える表現や、絵本の読み聞かせに必要な表現を用いて工夫して読み聞かせをする。 (思考力・判断力・表現力)
- 絵本などの短い話を反応しながら聞くとともに、相手に伝わるようにオリジナル絵本の読み聞かせをしようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・ 日本語と英語の音声の違いに気付き、誰かを尋ねたり答えたりしている。	・ 絵本などの短い話を聞いて、おおよその内容が分かっている。 ・好きな物を伝える表現や、絵本の読み聞かせに必要な表現を用いて工夫して読み聞かせをしている。	・ 反応しながら絵本などの短い話を聞こうとしている。 ・ 相手に伝わるようにオリジナル絵本を読み聞かせようとしている。

4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
話すこと [発表]	ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

5 指導上の立場

(1) 単元観

本単元では、絵本を扱い、児童に「短い話を聞いておおよその内容が分かる」という経験をさせる。最初はテキストの絵本「Who are you?」を導入とし、誰かを尋ねる言い方に慣れ親しみ、内容を読み取ったり、せりふをまねて言ったりすることを目指して指導する。また、絵本のおおよその内容を捉える中で、ALT がネイティブな発音で、表情豊かにジェスチャーなどをつけながら工夫をして読むことで、日本語と英語の音声やリズムの違いについても気付かせたい。次に、絵本「In the Autumn Forest」の読み聞かせを行い、話の中に出てくる身体の英語表現に慣れるとともに、グループで役割読みを行うようにする。ただ単に、話の登場人物になって読むだけではなく、相手を意識した読み聞かせの工夫を考える経験ができるようにしたい。そうすることで、読み手と聞き手が交流する読み聞かせの楽しさを味わうことができ、オリジナル絵本の読み聞かせという単元のゴールへの意欲が高まるであろう。最後は、児童自らが相手に伝えたいという思いをもって、自分のことを絵本にしたオリジナル絵本「I like ME!」を作る。児童は、手作りの絵本に思いを込め、読み手として相手に伝わるように工夫して読もうとするであろう。聞き手とのやり取りが生まれるような工夫を取り入れることで、読み手と聞き手両方の思いを交流する場面を作る。そのことが「自分たちも英語で絵本を作って読めた」という達成感につながると考える。

(2) 児童観 (男子6名 女子7名 計13名)

本学級の児童は、積極的に発表できる児童が少ないことや、学習に個別の支援を要する児童が複数いるため、グループ学習を多く取り入れている。外国語活動の時間では、覚えた表現については堂々と発言することができている。一方で、自分の考えを発信することに慎重な児童もいる。

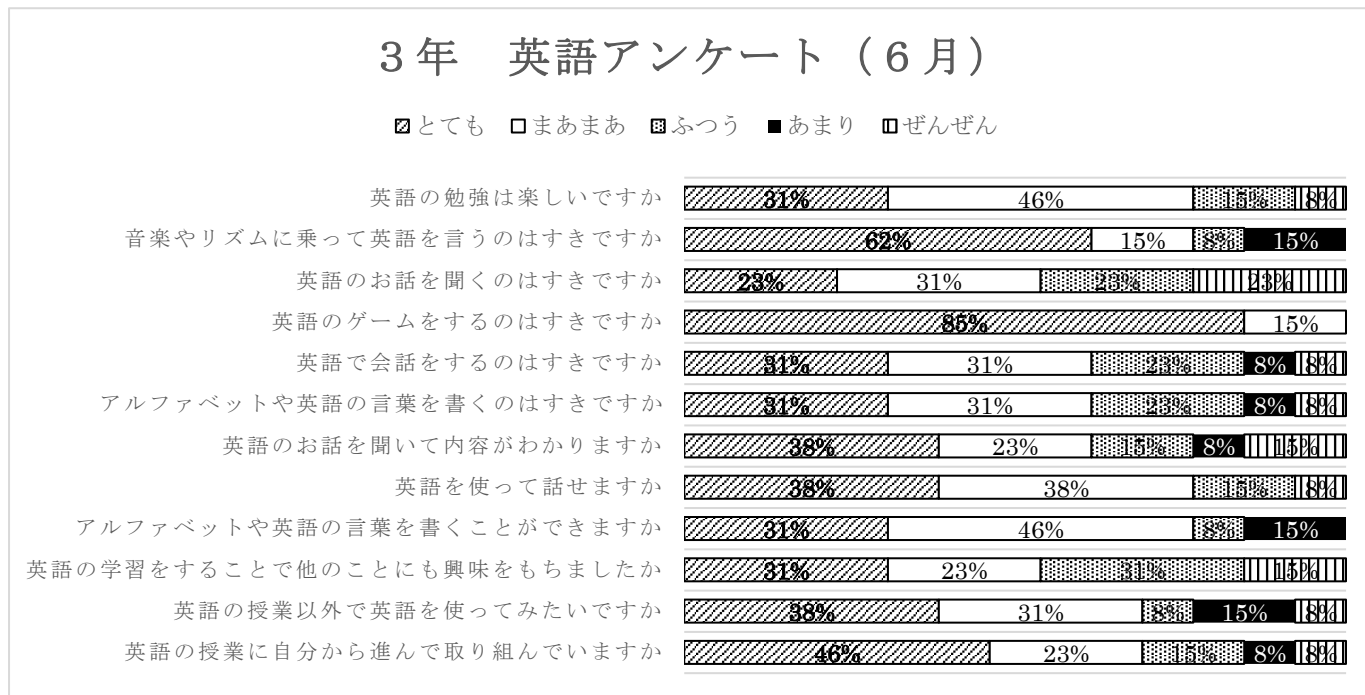
6月に行ったアンケートの結果(図1)からは、ゲームをすることや音楽やリズムに乗って英語を言う

ことは好きであるが、英語を使って話すことや英語の話を聞くことに肯定的な回答をした児童が少ないことが分かった。

本単元では、児童にとって身近な動物が登場する絵本を導入として用い、「あいまいだが分かるような気がする」と、おおよその内容を推測する経験を繰り返すことで、英語を聞くことへの意欲を高めたい。また、オリジナル絵本の読み聞かせを単元のゴールにすることで、読むことへの必然性をもたせ、「自分のこんなところを絵本にしたい」という思いを膨らませながら、楽しく読む活動に取り組めるようにする。

本時では、オリジナル絵本の読み聞かせの工夫を考える。その際、自分の考えを表現できにくい児童が安心して活動できるように、グループ活動を取り入れる。また、参観者に発表する場面を作るようにし、英語が大人に伝わったという達成感を持ち、次時の留学生への読み聞かせに自信をもってできるようにしたい。

※図1：今年度6月に3年生に対して行ったアンケート結果（n=13）



### (3) 研究主題との関わり

本校の研究主題「自分の思いや考えを伝え合い、地域や世界とつながろうとする児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～」に迫るために、本校の考える仮説を基に、次のような工夫をする。

#### 仮説1について

単元や発達段階の特性を踏まえて言語活動を工夫することにより、児童は、自分の思いや考えをもち、それを伝え合おうとするであろう。

本単元では、読み物を取り扱い、相手を意識して工夫しながら読むことを目指している。しかし、既存の本を使っての読み聞かせでは、読み方を工夫しても自分の思いや考えを伝える活動にはなりにくい。そこで、既習の好きな物を伝える表現を使って、自分の好きなことを伝えるオリジナル絵本を作って、読み聞かせをすることにした。また、留学生という具体的な相手を示すことで、自分のことを伝えたいという思いをもち、意欲をもって取り組めるようにしたい。

本時では、最後に参観者の方に聞いてもらうことで、自分たちで考えた読み聞かせの工夫によって、聞き手との交流が生まれ、自分のことを伝えることができたという達成感を味わわせたい。

#### 仮説2について

学びのつながりを意識して単元（新本オリジナル）を構成すれば、本物で必然性のある言語活動が生まれ、児童は主体的に学習に取り組むであろう。

本学級は、支援の必要な児童もいるため英語の読み聞かせだけでは読みの工夫がどのようなものかが分かりにくいと考えられる。そこで、本単元の前から日本語の絵本での読み聞かせを朝の会で行い、読み方を工夫した読み聞かせの楽しさをしっかり味わわせるようにしたい。また、単元の最後にオリジナル絵本の読み聞かせを行う。それまでにテキストの絵本「Who are you?」や「In the Autumn Forest」を使って、読みの工夫を考えるという経験をすることで、オリジナル絵本の読み聞かせに生かす工夫の幅を広げる。たくさんの選択肢の中から読み聞かせの工夫を選ぶことが主体的な活動につながると考える。

本時は、単元のゴールである留学生にオリジナル絵本を聞いてもらうという相手意識をもち、読み方の工夫をする場面である。「どう読んだら留学生の人に楽しんでもらえるだろうか」という思考を働かせ、既習表現や本時まで集めておいた読み聞かせの工夫を使って、進んで活動に取り組む姿を期待する。

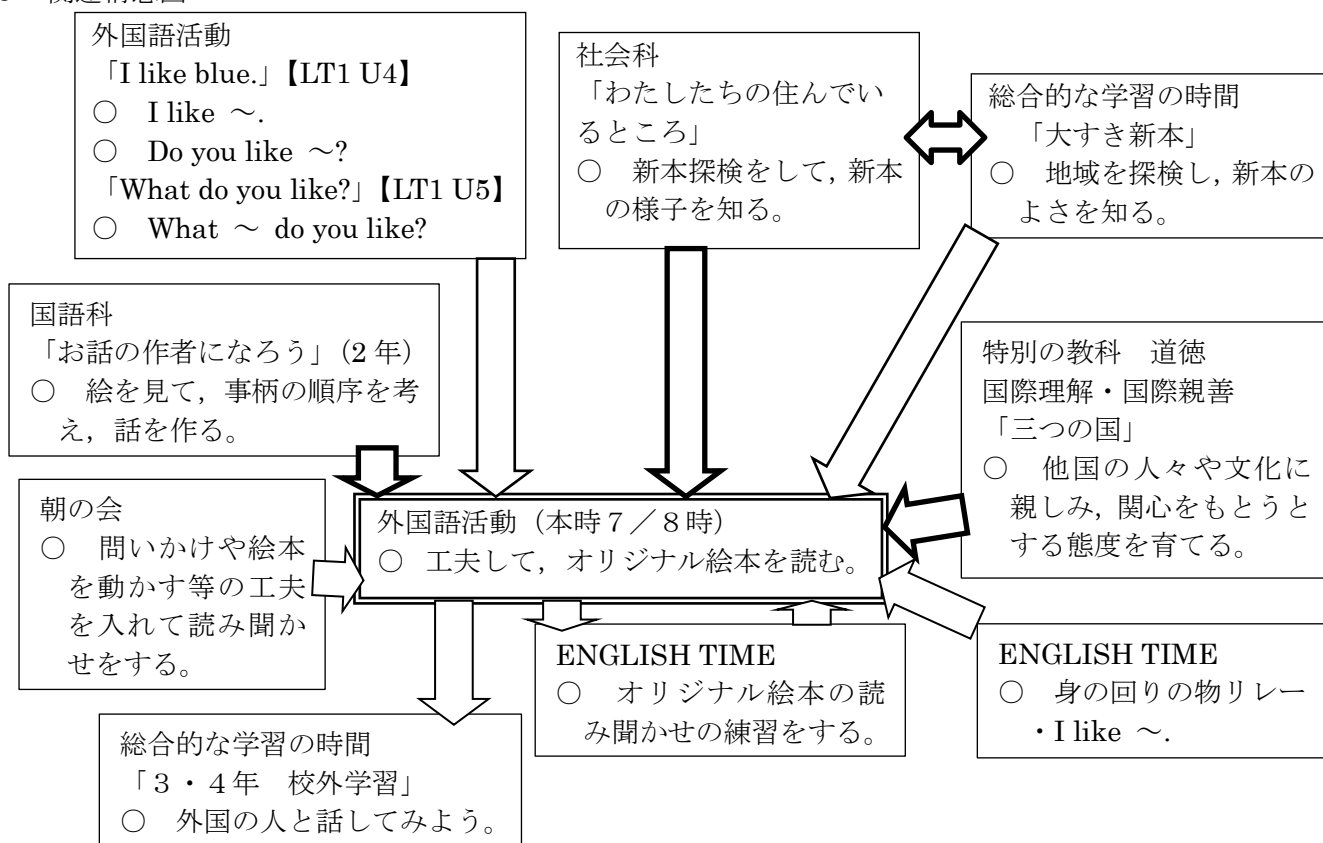
### 仮説③について

様々な人々と関わることによって、コミュニケーションの楽しさを味わい、より広い世界に目を向けるであろう。

本単元では、「授業を主に進める HRT」「発音や発声の指導を行う ALT」と、隔週で週に一度 ALT と交代で授業に入る「高学年の学習を見越した指導を行う小中連携担当教員」、不定期で授業に入る「児童への細やかな支援を行う地域ボランティア EVT」がそれぞれの特徴を生かした役割分担をして、チームティーチングを行っている。本時では、HRT は、授業を主として進めていき、ALT は児童への英語の発音や児童が使ってみたい英語表現の指導・支援を行う。EVT は、グループでの活動の様子や発表している様子から適宜、助言や支援を行う。ALT や EVT によるネイティブな英語の読み聞かせに触れることで、日本語と英語の音声やリズムの違いを感じ取り、絵本の楽しさを味わうことができるのではないかとされる。また、ALT や EVT の読み聞かせの中で多様な読み聞かせの工夫を示すことで工夫の幅が広がり、児童は読みの工夫を楽しんで行き、留学生に聞いて欲しいという思いが高まり、さらに他の人にも聞いて欲しいという思いが広がるのではないかと考える。

また、単元のゴールとして留学生との交流の中でオリジナル絵本の読み聞かせを行う。自分のことを紹介するオリジナル絵本にすることや聞き手とのやり取りを入れる工夫をすることによって、留学生に自分のことを伝えられたというだけでなく、やり取りができたという自信につながり、もっといろいろな人と英語で会話をしたいという意欲にもつながるのではないかと期待している。

### 6 関連構想図



7 本時案 (第7時)

(1) 本時のねらい

- 好きな物を伝える表現や絵本の読み聞かせに必要な表現を用いて、工夫してオリジナル絵本を読み聞かせる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援(●HRT, ■ALT, ★EVT)	学習評価
<p>1 Greeting</p> <p>2 Warm up</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な物リレー</li> </ul> <p>3 Review</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師のオリジナル絵本の読み聞かせ 『I like ME!』</li> </ul> <p>4 Aim</p>	<p>●■ 英語で挨拶をした後、気分や天気、曜日、日付、について尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。</p> <p>●■ I like ～.のリレーをして、自分の本当に好きなことをリズムよく言うようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>■ I like ～. Do you like ～?</p> <p>児① Yes, I do.(No, I don't.) I like ～. Do you like ～?</p> <p>児② Yes, I do.(No, I don't.) I like ～. Do you like ～?</p> <p>児童全員でリレー</p> <p>★ Yes, I do.(No, I don't.) I like ～. Do you like ～?</p> <p>● Yes, I do.(No, I don't.) I like ～.</p> </div> <p>■ 児童の使いそうな表現を使って、聞き手に投げかける場面を多く作り、聞き手である児童が参加しながら話を聞けるようにすることで、読み聞かせの楽しさを味わうことができるようにする。</p> <p>● 教師のオリジナル絵本の読み聞かせを思い出させ、前時より楽しかった理由も考えながら、Aim を一緒に考えるようにする。</p>	
<p>Aim 読み方を工夫して、聞き手につたわるようにしよう。</p>		
<p>5 Demonstration</p>	<p>●★ 作った絵本を、互いに紹介する形で、聞き手に話し掛けるような工夫をすることで、児童に本時の活動の見通しをもたせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>● I like ME!</p> <p>I'm Yumi.</p> <p>I like ～. (Do you like ～?)</p> <p>I like ～. (What ～ do you like?)</p> <p>I like ～. (It's very cute.)</p> <p>I like Yumi. Thank you very much.</p> <p>★ I'm ～.</p> <p>I like ～. (問いかけ・付け足し等)</p> <p>I like ～. (問いかけ・付け足し等)</p> <p>I like ～. (問いかけ・付け足し等)</p> <p>I like ～. Thank you very much.</p> </div> <p>● 『In the Autumn Forest』の役割読みや教師の読み聞かせでの工夫を全体で確認し、ポイントは板書にまとめるようにすることで、どんな工夫を考えればよいのかイメージしやすいようにする。</p>	

<p>6 Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読みの工夫をグループで考えて、読む練習をする。</li> <li>グループごとに一人ずつ発表する。</li> <li>中間交流</li> <li>中間交流を生かして、改善することをグループで話し合い、練習する。</li> <li>参観者に発表する。</li> </ul> <p>7 Comment time</p>	<p>読みの工夫のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手に問いかける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Do you like ~?</li> <li>What ~ do you like?</li> <li>What's This?</li> </ul> </li> <li>付け加えて言う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>very cute</li> <li>yummy</li> <li>beautiful</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 話合いが終わったところから、練習を始めてよいことを伝えておく。</li> <li>■★● 各グループを観察し、助言やよいところを称揚することで、安心して取り組めるようにする。しかし、助言は児童の考えを生かしたものになるよう配慮する。</li> <li>● 発表以外のグループは、絵本の聞き手になってリアクションしたり、答えを返したりしてよいことを伝えることで、読み手のグループが、意欲的に楽しんで読めるようにする。</li> <li>■★● 児童の読み聞かせの聞き手に入り、しっかりリアクションや答えを返すことで、児童の自信につながるようにする。</li> <li>● 一つのグループごとに、聞き手の児童からの感想と、教師からの評価をすることで、自分たちのグループへの意見であることを意識できるようにする。</li> <li>● 練習の後に、参観の方に発表することを伝えることで、改善のための話し合い活動が、相手意識をもってできるようにする。</li> <li>■★● 各グループを観察し、中間交流で出したことをどのように改善すればよいか困っているときには助言をしたり、よくなったことはしっかり称揚したりすることで、自信をもって発表ができるようにする。</li> <li>● 参観者に、グループに分かれて聞いてもらうことで、感想等を話してもらいやすくするとともに児童もその感想を自分のこととして意識できるようにする。</li> <li>● 発表ではない時には、絵本の聞き手になって答えたり、リアクションをしたりすることを促す。</li> <li>■★● 各班の児童の読み聞かせの聞き手に入り、手本となりリアクションや答えを返すようにする。</li> <li>● 振り返りの視点を与えることで、本時で工夫したことを留学生が来たときにも生かせるような振り返りができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで読み方の工夫を考えることができましたか。</li> <li>聞き手に伝わるように読むことができましたか。</li> <li>今日、オリジナル絵本の読み聞かせをして、気付いたことや感想を書きましょう。</li> </ul> </li> </ul>	<p>◇ 相手に伝わるように、読み方の工夫を考えている。 【思考力・判断力・表現力】 (発言・行動)</p>
--	--	--

- ほかのはんの友だちや来てくれた先生が、たくさん答えてくれてうれしかった。
- ほかのはんの人の好きなことが知れてよかった。
- りゅう学生の人に読む時も、くふうをして読みたい。

8 Greeting

- 読み聞かせのポイントや活動の態度について称揚することで、留学生への読み聞かせも意欲をもって取り組めるようにする。
- できるようになったことや発音でよくなったことを称揚することで、自信をもって他の場面でも英語でのやり取りができるようにする。
- ★ 支援をしたことについてよくなったことを称揚することで、自信をもって留学生への読み聞かせができるようにする。
- 気持ちのよい挨拶をすることで、次時への意欲を高めることができるようにする。

(3) 板書計画

**Goal** オリジナル絵本を作って、〇〇さんに聞いてもらおう。

**Aim** 読み方を工夫して、聞き手につたわるようにしよう。

読み方のくふう

絵本の例

- 聞き手に問いかける。
  - Do you like ~?
  - What ~ do you like?
  - What's This?
- つけ加くわえて言う。
  - It's very cute.
  - It's yummy.
  - It's beautiful.
- ジェスチャー
  - 表じょう
  - 絵本を動かす。

Greetings
Warm up
Review
Aim
Activity
Comment time
Greetings